

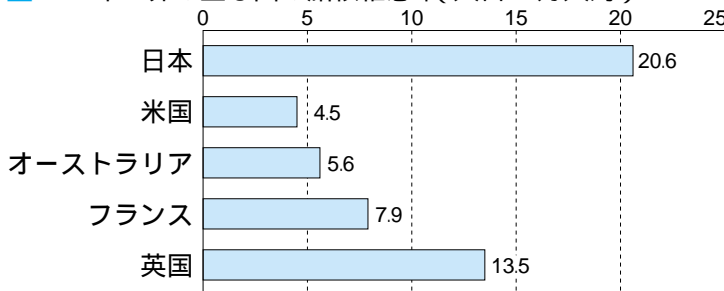
結核を 予防しよう



結核は、決して過去の病気ではありません。風邪だろつとの思い込みが結核の発見を遅らせています。結核は現在でも「日本最大の感染症」なのです。

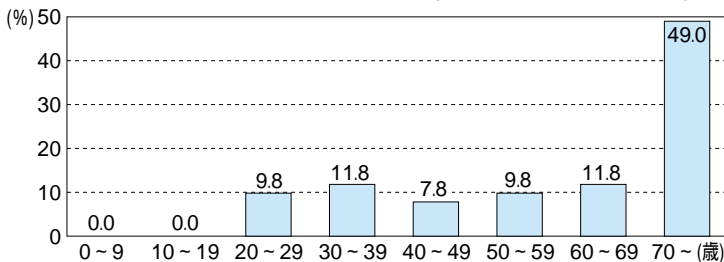
3月24日(火)は世界結核デーです。この機会に、結核に対する正しい理解を深め、予防に努めましょう。

1 2006年世界の主な国の結核罹患率(人口10万人対)



罹患とは病気にかかることを意味し、罹患率とは、一定の期間にある集団の中で新たに特定の病気にかかる危険度を表します。通常、人口10万人当たりの数値で示します。

2 新規登録結核罹患者の年齢別割合(平成19年・宇都宮市)



結核の現状
2007年(平成19年)の1年間に結核に感染し発病した患者数は、全国で2万5300人にも上り、日本は、先進国の中でも罹患率が高く(表1)、依然として「結核中まん延国」と言われています。

これは、長寿世界一の陰で余病を持った高齢者が増加したことによって結核発病が促進されたことに加え、結核に対する意識の低下からくる発見の遅れが、さらにそれを助長していることが、主な原因であると考えられています。

また、本市の結核患者新規登録者の年齢をみると(表2)、60歳以上が60%を超えており、体力や抵抗力が衰え始めている高齢者は、特に注意が必要です。

結核ってどうやって感染するの？
結核は、「結核菌」を吸い込むことによって主に肺に炎症を起こす病気です。結核患者が、せきやくしゃみをした時に飛び散る結核菌を吸い込むことによって感染します。ただ、感染しても、普通は免疫の働きで発病を防ぎ、感染した人で一生のうちに発病す

るのは10人に1人程度といわれています。

感染して1~2年で発病する場合と、何年もたつて体が弱ってきたときに、眠っていた結核菌が目覚まして発病する場合があります。無理なダイエットや不規則な生活、また、加齢や糖尿病などで免疫力が弱っているときは発病しやすくなります。

結核を発病すると
結核の初期症状は風邪とよく似ています。風邪薬を飲んでも2週間以上も微熱やせきやたんが止まらないときは危険信号です。放っておくと肺の中で結核菌が増殖して症状が進行し、他人に感染させる恐れが出てきます。このような症状が現れたときは、早めに医療機関で受診しましょう。早期に発見し治療をすることで、他人にうつす恐れもなくなります。

結核の予防のために
年に1回は定期健診をレントゲン検査を行えば、万が一結核を発病しても早い段階で分かるので、大規模な集団感染を防ぐとともに、入院しなくても治療ができます。

高年齢者の結核が増加
現在の高年齢者は若いころに結核の流行を経験していて、既に結核に感染している人が多く、体力・抵抗力が低下したときに、眠っていた結核菌が目覚まして発病するケースが増えています。症状が現れたら、早めに専門医の診断を受けることが重要です。日ごろから健康に留意し、体力や抵抗力を弱めないような生活を心がけましょう。

生後6カ月未満児にBCG予防接種を
抵抗力の弱い乳児の結核は重症化しやすく、死に至ることがあります。できるだけ早い時期にBCG接種を確実に受けましょう。

3月24日は世界結核デー

ローベルト・コッホは、1882年3月24日、結核菌を発見しました。世界保健機関は、結核問題の重要性を警告し、対策の強化の必要性を訴えるため、この日を「世界結核デー」と制定しました。世界結核デーを機会に、結核に対する正しい理解を深め、予防に努めましょう。

結核キャラクター「シール坊や」

本文中に費用などの記載がないものは、原則として無料
HP ホームページ、☑ Eメールアドレス